



令和5年12月21日  
小田原市立東富水幼稚園  
文責 久保寺 佳香



東富水幼稚園は、  
令和5年度の教育目標を  
『認め合い育ち合う子どもの育成』とし、  
★自ら関わることを楽しむ子  
★粘り強く頑張れる子  
★自分も友達も大切にできる子  
を目指し指導にあたります。

吹き抜ける風がますます冷たくなってきました。子どもたちの吐く白い息が、ピリッとした冬の空気に吸い込まれていきます。

早いもので“師走”となりました。師走の声を聞くと何かとせわしない気分になりますが、『時間のゆとりが、心のゆとり・・・』こんな時こそゆったりとした気持ちで過ごしたいものですね。

先日、一年の締めくくりとして“餅つき”をしました。薪をたきつけ火をおこし、釜の水を沸騰させ、その蒸気でもち米を蒸します。炊きあがったもち米を臼に移し、杵で練ります。ある程度練ったら、餅つきの始まり。「よいしょ！よいしょ！」のかけ声に合わせて、子どもたちが張り切って杵でついていきました。出来上がった餅は、子どもたちの可愛い手で小さく丸めて『鏡餅』となり、幼稚園の畑に実ったキンカン（本物は橙です）を上飾りしました。正月を迎えるための日本の伝統文化です。子どもたちには、「家族みんなが健康で幸せになるように飾るもの」と伝えました。ぜひ、正月飾りの一つとして家庭に飾ってください。



畑にかまどを設置し火をおこし。役員の方にもご協力いただきました。



重たい杵をもって餅つき大会！周りで見ている友達の応援に力が湧きます。



「手にくっついちゃうよ！」と言いながら、大小の丸餅を作りました。よくがんばったね。

### 幼児期に“太くて丈夫な根っこ”を育てましょう！

幼児期は人間としての基礎となる、木で例えると“根っこ”の部分が育つ時期です。幼稚園では、将来社会人として立派に生きていくための基礎を培っています。

緑の葉っぱをたくさんつけた豊かな木になるために、幼児期には**目に見えない**根っこの部分をしっかりと育てることが大切です。



## 幼児教育は環境を通して行う教育です！

幼児期は、生活の中で**自分の興味に基づいた直接的・具体的な体験**を通して様々なことを身につけていきます。そのため、幼稚園では、子どもたちが「おもしろそう」と自ら関わりたくなるような魅力ある環境を工夫し、遊びを展開できるようにしています。また、「なるほど」「そうだったんだ」など、気づきや発見が促され、友達との関わりが生まれるよう、**十分な時間や空間**を保障しています。

第2学期は、運動会や生活発表会と大きな行事を経験しました。コロナ禍でできなかった**“友達とのふれあい”**も十分に楽しみながら様々なことに挑戦し、心も体も大きく育ってきたことを感じます。

### 運動会では、“多様な動き”を意識して子どもたちと競技の内容を考えました。

ひよこ組では、教師が読んだ絵本がきっかけとなり、忍者ごっこが始まりました。

そこで、教師は、一本橋やはしごを渡ったりトンネルをくぐったりするコースをつくり、忍者の修行を楽しめるようにしました。また、音楽に合わせて修行をするリズム遊びを取り入れ、どの子どもも忍者のイメージをもちやすいようにしました。遊びがますます楽しくなってくると、子どもたちはより本物の忍者を目指しました。「忍者は手裏剣を持っているんだよ」「洋服も作りたい」「忍者って口にこんなのがついてるよね」など、髪飾りや衣装にもそれぞれこだわりがあり、見ていてとてもおもしろいものが完成しました。

運動会で見ていただいたものは、その中の一部ですが、子どもたちは、誰かに言われてやるのではなく、「おもしろそう」「やってみたい」とわくわくしながら自ら取り組み、何度も繰り返して修行ごっこを楽しんだり、友達と競い合ったりして、体を動かす楽しさを存分に味わうことができました。また、運動会に向けての経験の積み重ねの中で、子どもたちは“思い切り走る”“的をねらって投げる”“動く・止まる”などの多様な動きにプラスして、「もっとやりたい」「負けて悔しい」「悔しいけどがんばる」など、心の成長も感じられるようになりました。



### 「多様な動き」とは…

文部科学省の運動指針には、幼児期の運動について『多様な動きが経験できるようにする』『楽しく体を動かす時間を確保する』『発達に応じた遊びを提供する』ことが大切であると書かれています。多様な動きとは、“歩く”“走る”“跳ぶ”“転がる”“投げる”“蹴る”“翻す”“バランスを取る”などの様々な動きのことで、**子どもたちが思い切り体を動かし、友達との関わりを楽しむ遊びの中には、この“多様な動き”がたくさん入っています。**

### 令和6年度に向けて・・・

今年の夏は猛暑のため思うように運動遊びに取り組むことができず、やむなく10月に延期させていただいたという経緯があります。その反省を元に、来年度は、10月中旬の保育参観週間の中で、子どもたちの運動遊びの様子を見ていただいたり、親子でのふれあいを楽しんでいただいたりできるよう取り組み方を変更します。子どもたちが夢中になって自分の力に挑戦し、友達と気持ちを合わせて競技をつくり出していく過程を大切にしたいと考えています。ご理解とご協力をお願いいたします。



## 飼育物の世話を通して『命の学び』をしています。

夏のように暑い日が続いたかと思うと、急に寒くなった11月の終わりに、カメのリボンちゃんが餌を食べなくなりました。毎日のように覗きに来ていた子どもたちも、「餌、食べないね」「甲羅がむけてきたよ」「寒いからかなあ？」とリボンちゃんの変化に気付き、とても心配そうでした。「カメは冬になると葉っぱの中で冬眠するんだよ。もうねむくなっちゃったのかなあ」と伝えると「葉っぱはあったかいんだね」「水の中は冷たいもんね」「葉っぱを取りに行かなきゃ」とリボンちゃんの気持ちになって、これからどうしたらよいかを一緒に考えてくれました。



そして、12月1日の暖かい陽だまりの中で、カメ当番の子が最後のお手入れをし、みんなでふかふかのベッドをつくりました。カメは湿ったところで冬眠します。葉っぱが湿るくらいの水を入れ、もう目を閉じそうなりボンちゃんをそっと中にいれてあげました。そして、誰からともなく小さな声で「おやすみなさい」の声を掛け、乾いた葉っぱで包んであげました。1年を通して大切に世話をしてきたことで、飼育物の生態を知り、愛情をもって関わることの大切さを学ぶことができたようです。

今度会えるのは、すみれ組さんが一年生になる頃でしょうか。春になったらまた会おうね。

## 遊びの中には学びがいっぱい！

幼児は、遊びや生活の中で、自分がやりたいことを見つけると、時間を忘れてしまうくらいに夢中になって遊びます。その中で、感性を豊かにし、たくさんを感じ、考え、全身を使いながら様々なことを身に付けています。そして、自分たちができるようになったことを使いながら、友達と一緒に繰り返し試したり、工夫したり、表現したりし、確かな力を培っています。それが、“**小学校への学びの基礎・土台**” になっていきます。

## 幼児期の終わりまでに育てほしい姿『豊かな感性と表現』

5歳児すみれ組では、運動会で“海賊”になりきって踊りを踊った経験が、遊びへと繋がり、ダンボール箱を使って海賊船をつくったり、友達同士で役になりきって言葉を交わしたりしながら、表現遊びを楽しむようになりました。教師は、海賊たちと同じように「ネコ」になりきって餌を食べたり、「救急隊」になりきって患者さんを診たりする子どもたちの姿を大切にしながら、それぞれの遊びに十分に遊び込めるように素材を提供し、子どもたちが試行錯誤しながらやりたいことを実現させようとする姿を支えてきました。

その延長線として、役に合った動きを表現したりセリフを考えたりしながら、世界にたった一つのオリジナルストーリー『海賊と猫と病院の冒険』を完成させました。

生活発表会当日は、家の人の前で少し恥ずかしそうにしながらも、いつも通りの笑顔で元気いっばいに表現を楽しむ姿を見ていただくことができたのではないのでしょうか。保護者の方からいただいた感想からも、子どもたちが毎日楽しみにしながら取り組んできたことを読み取ることができ、とても嬉しく感じました。

子どもたちが課題に直面したとき、自分たちの経験を使って知恵を振り絞り、何とかして解決しようとする姿は、小学校の学習にも通じるものです。そのためにも、夢中になって取り組むことができる環境と十分な時間を用意していきたいと考えています。



海賊船で魚釣り！  
「やったー！魚が取れたぞ！」



「痛いところはありませんか？」お医者さんに優しく手当てをしてもらいました。

## 子どもたちはたくさんの方に支えられています！

近年、家庭においても地域においても人間関係が希薄化し、子どもたちの人と関わる力が弱ってきています。そのような状況の中で、地域の人たちと積極的に関わる体験をもつことは、人と関わる力を育てる上でとても大切です。

### 不思議な大根

「子どもたちに見せてあげて！」と、細谷さんが手にしていたのは・・・見たこともない足のたくさん生えた大根。どうしてこのような姿になったのかわかりませんが、子どもたちも目を丸くして驚いていました。細谷さんには、野菜の植え付けや収穫など、たくさんの方に力を貸していただいています。

さて、大根には・・・「裸ん坊で可哀そう。」と、すみれ組が洋服を着せてくれました。まるで可愛い赤ちゃんのように大切にされています。



### 『よさこいソーラン』に憧れて…

運動会を目前に控えた小学校から、賑やかな音楽が流れてきました。「もしかしたらお兄ちゃんがいるかも！」と、テラスから覗き込んでいた子どもたちを見て、すぐに小学校に連絡！小学校の先生方に、授業中にもかかわらず快く受け入れていただき校庭で見学をさせていただきました。子どもたちは、



目の前で見た5・6年生の豪快な“よさこいソーラン節”に心を動かされ、園に戻ってから何度も何度も踊りました。それが、すみれ組の生活発表会へと繋がりました。

小学生は子どもたちにとって“身近な憧れの存在”です。

### 中学生との交流(幼児ふれあい交流学習)

泉中学校の3年生に招待していただき、ひよこ組が手作りおもちゃでたくさん遊ばせてもらいました。はじめのうちは緊張気味だった子ども、いつしか自分から声をかけ、中学生の手を引きながら遊ぶようになり、心のつながりを感じました。中学生からも、乳幼児に触れたたくさんの学びがあったことを伝えていただき、互惠性のある学びに繋がっていることを感じました。

少子化が進む中で、優しいお兄さんお姉さんと共に過ごす時間はとても貴重です。

今後も大切にしていきたい交流のひとつです。



## 冬休みを前に…



明後日から冬休みに入ります。

第3学期は、進級・進学に向けて心と体の準備が大切な時期です。今まで積み上げてきた生活を崩すことのないよう心掛け、『早寝・早起きをして朝ごはんをしっかりと食べる』習慣をしっかりと身に付けることができるように環境を整えてあげましょう。

また、冬休みは子どもたちにとって家族の一員として力を発揮できる絶好のチャンスです。何事も経験！失敗から学ぶこともたくさんあります。自分の力でできるものに責任をもって取り組むことができるよう役割を考えてあげましょう。そして、それができたときには、たくさん誉めてあげてくださいね。

第3学期が始まり、子どもたちから、冬休みの楽しい話が聞けることを楽しみにしています。

本年も、保護者の皆様よりたくさんのご理解とご協力をいただきましたことを大変感謝しております。来年もどうぞよろしくお願ひいたします。よいお年をお迎えください。